

インラインアルペン ワールドカップ チェコ大会参戦レポート

2011年9月22日

山川 潤

昨年に引続き2回目となる国際試合の参戦、2011年9月10日、11日のワールドカップチェコ大会に参戦しました。今年の代表選手は男子4名。当初は1週前のモスクワ大会に参戦する予定でしたが選手や関係者のビザ取得や事務手続きがうまくゆかず大会自体が中止となってしまう、日本チームは急遽チェコ大会への参加を決めたのです。いささかバタバタした感じのスタートとなりましたが、9月7日の正午に4名の代表選手は無事成田空港に集合、元気にチェコに出発しました。チェコの大会会場はオーストリアの国境近くのネムチッキと言う所でウィーンから車で約2時間。予算の都合もあり、モスクワ経由でまずはウィーンに入りそこからレンタカーでチェコへ移動する方法をとりました。今回は7日間の日程で大会2戦に出場すると言ったやや忙しいスケジュールでした。初日はオーストリアで午前中トレーニングをした後に空き時間で少しだけウィーン観光を行い、翌日はチェコに移動して大会参加選手を対象としたトレーニングに参加、その翌日からは2日間大会に参戦して帰国と言った感じでした。チェコの大会コースは昨年の世界選手権の会場となったドイツ(ウンターレンジンゲン)のコースのように急斜面や急カーブと言ったものはありませんでしたが、真っ直ぐな中斜面が長く続き全長はウンターレンジンゲンのそれよりも約50m長い300m弱で、旗門数も10旗門程多い50旗門弱、どんどん加速してスピードが出てゆく中にそれなりに厳しいセットが立てられたタフなコースでした。結果の方は、1日目は2本無難に揃えて総合27位、1995年以後生まれのクラス(いわゆるジュニア枠を除いたクラス)で19位でした。2日目は1本目それなりに攻めた結果、コース中盤であえなく転倒。タイミングが一瞬遅れたのをリカバリーしようとして内足をボールの根元にひっかけ前方にダイブ。それでも意地でゴールし36位と言うリザルトは残しました。幸いプロテクターのおかげで怪我は腰の打撲と膝をすりむいた程度で済みましたが、体より心が痛い結果となりました。昨年のドイツはセカンドカットになり2本目に進めずリザルトさえ残せなかった事を考えれば今年は初日、2日目ともにリザルトがしっかり残せたので進歩と言えば進歩ですが、やはりヨーロッパ選手との差は歴然としていました。昨年より彼らにちょっと近づいた分、その差も良く分かりました。昨年彼らの滑りをはじめて見て、ドイツパワースライドチームとの合同練習で向こうのコーチにアドバイスをもらい、滑る技術が日本選手と違っていた事が分かりました。そのあたりを練習し今年に望んだのですが、なかなかその差を埋めるには至りませんでした。滑りの技術の本質的なものが我々日本人と違う感じを受けました。ポジショニングとかスケートの使い方とかもう少し本質的なものも吸収しなくては彼らにはまだまだ追いつけないと感じました。何とかヨーロッパ選手の技術を吸収してもう少し勝負できるところまで進歩したいと、ついあきらめの悪い性分が顔を出してしまいます。後は経験の差も大きいと感じました。かれらは毎週のように厳しいコースでのレースを転戦し、練習段階から旗門数や斜度なども本番を見据えて行っている事を思えば、斜度や旗門数も国際試合とは全く違った易しい限られた環境で練習している日本選手とはその経験の差はあって当然と言えば当然ですが、何とかこの辺りも限られた環境ではあるものの埋めてゆく手段がないものかと思案するところです。とにかく出るからにはそれなりに外国勢とも勝負出来るようになりたいと思うのであります。今回のチェコ遠征は少し経験を積んだ自分を感じ、ヨーロッパ勢との歴然とした差を感じ、結果に満足出来ないと思える分少し成長した自分を感じ、何とか彼らに追いつけないものかと思いを強くした、そんな遠征でした。最後になりましたが現地でのコーディネーションをして頂いたパワースライドジャパンの高井さん、INSA会長の海野さんを初めチームメイトの菊川さん、大淵さん、いろいろお世話になりありがとうございました。チームキャプテンとして特に何も出来ませんでした但し皆さんには感謝しています。この場をかりて御礼申し上げます。

以上